

埼玉労働局長が長時間労働の削減に積極的に取り組んでいる企業（ベストプラクティス企業）を訪問しました。

11月の「過労死等防止啓発月間」期間中に、「過重労働解消キャンペーン」の一環として、令和3年11月26日、高橋埼玉労働局長が県内で長時間労働の削減等の働き方改革に積極的に取り組んでいる企業（ベストプラクティス企業）を訪問しました。

訪問企業の概要

株式会社イチヤナギ（所在地：埼玉県入間市狭山ヶ原 162）

代表者 代表取締役社長 一柳 達朗 設立 昭和23年 社員数 42名
事業内容 熱間鍛造特殊ナットの製造（乗用車のエンジン内部のナットなど）



主な取組内容

社員が働きやすい職場環境作りが、業務の円滑化・効率化をもたらし、残業時間の削減、有給休暇の取得の増加につながっています！

(1) 社員の共通認識の醸成 ⇨ 仕事に対する意識と社員間の意思疎通の向上により業務を円滑化・効率化⇩

- ◆ 経営計画書の配布、毎日の工程会議の実施
 - ・社長の思いと経営方針が書かれた経営計画書を全員に配布し、期の初めに「経営計画発表会」を実施している。朝礼でも1ページほど読み合わせをし、内容を理解してもらうようにしている。
 - ・毎日工程会議を行い、業務の進捗、翌日の製造、出荷を話し合い、部署間の連携を図っている。

(2) 時間外労働削減の取組み ⇨ 「物の置き場所」、「人の動き」、「物」の無駄を解消し、作業を効率化⇩

- ◆ 多能工化
 - ・1人が複数台の機械を扱えるように教育した。
- ◆ 作業方法の効率化
 - ・平置きだった製品鉄箱置き場をラック化し、リーチフォークリフトを導入し、品物を取り出せるようにした。製品を探す手間、天井クレーンで積み替えをする時間、棚卸をする時間が大幅に削減された。



- ◆ 作業場所の集約
 - ・工場内4か所で製品検査を行っていたが、新たに製品検査室を作り、検査場所を1か所にまとめ、品質管理室も隣に移設した。人の管理、検査の進捗状況の確認、検査品の準備、検査者から品質責任者への問い合わせ時間が大幅に削減された。



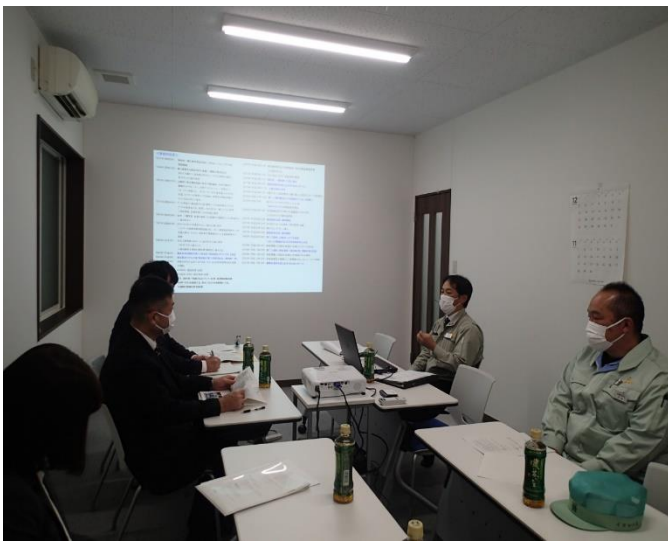
- ◆ 機械の配置の変更
 - ・工場内の機械レイアウトを大幅に変更し、機械の向きを統一し、通路側に製品箱を置くようにした。また、関係する棚を作業者の近くに配置し、工程の順番に沿って機械を配置した。人と物の移動時間の短縮、部署間の天井クレーンの取り合いもなくなり、作業時間が大幅に削減された。

(3) 社員が働きやすい会社づくり ⇨ 社員に対する福利厚生により社員間のコミュニケーションを向上⇩

- ◆ 社員に対する感謝の気持ちの表明、社員間の親睦を深めるための取組み
 - ・月初めの朝礼時に誕生月の社員に埼玉県秩父産のワインをプレゼントしている。
 - ・職場で懇親会（自由参加）を開催するときに会社から補助を行い、社員間の親睦を深める手助けをしている。

〈成果〉

1か月の残業時間数	年間所定休日日数	年次有給休暇の平均取得日数
0時間（令和3年9月） （平成25年：最長の者58.5時間）	119日	9.5日



一柳社長（右側奥）と高橋局長（左側手前）の対談の様子



工場内を視察する高橋局長（右側）の様子

☞一柳社長からは、「工場内を社員が働きやすい環境に整えていくことで、物の置き場所の無駄や人の動き、物の無駄、小さなストレスが減り、結果として残業時間の短縮にもつながりました。有給休暇の取得についても、有給休暇などで休む場合は、他の人が代わりに仕事をするできるように多能工化し、お互い様の精神で業務を行っています。」など働き方改革の取組について説明がありました。

☞高橋局長は、「素晴らしい製品を通して社会に大きく貢献されている裏側に、社員の方を大事にして、働きやすい、作業がしやすい環境作りに熱心に取り組んでいることがよく分かりました。取組により、プライベートやご家庭の中でも色々なメリットが多重的にあると実感させていただいた。社員の皆さんのストレスや残業の削減につながり、職場と家庭の両立につながっていることが印象的である。」などと応じました。



高橋局長と社員の皆様との意見交換の様子



レイアウト変更を行い整理・整頓が行き届いた工場内の様子

意見交換にご参加いただいた社員の皆様からは、

- ☞「製品置き場がラック化されたことで、棚卸が楽になった。平置きだった時は、月の最終日がほとんど棚卸の時間に割かれてしまったが、今は半日掛からずに終わる。」
- ☞「使っている機械の後ろに棚を集約したので、金型在庫の確認や必要な物がすぐに出し入れできる。1回の作業で半分位は時間短縮したと思う。」
- ☞「まとまった休みが取れるようになり、趣味の海外旅行に行けるようになった。」
- ☞「子供に熱が出て仕事を休まなければならないときに、多能工化のおかげで気兼ねなく休ませていただけるのがありがたい。」
- ☞「以前は、帰宅時間が19時頃、遅いと21時頃で、その時間だと子供が寝ていた。今は終業時間の17時30分で帰れている。妻も働いているので、早く帰宅できると家事分担ができる。子供をお風呂に入れたり、ご飯を作ったりしている。」

などのご意見をお聞きすることができました。